

劣化の判定基準紹介

札幌建協

橋梁の点検
補修研修会

佐藤北大准教授が講演

橋梁の維持管理技術を
建設業協会(岩田圭剛会
長)は6日、道建設会館

で建設技術者を対象に点検・補修に関する研修会を開いた。同建協の自主研究会で座長を務める北大大学院の佐藤晴彦准教授が講演し、劣化のメカニズムや検討を進めている新しい判定基準などを紹介した。

老朽化が進む公共施設の維持管理が重要となる中、橋梁点検・補修の知識を深め、同建協が独自に取り組む「橋梁のトータルマネジメントシステム」を理解してもらうことが目的。石狩管内の建設会社や建設コンサルタント会社、市町村から152人が参加した。

トータルマネジメントシステムは、同建協が2011年度に公共事業の創出モデル第2弾として構想を策定した。発注者が異なる橋梁を道路管理者と字職経験者、施工業者、設計コンサルタントでつくる運営チームが効果的、効果的に維持管理し、長寿命化を図り適切な架け換えを目指す。

研究会で佐藤准教授は、名古屋大と中日本高速道路が共同で取り組む実物大模型「ニユーブリッジ」での最新劣化研究や、福島大が提唱し実践する産官学民による橋梁の協働保全の仕組みなどを紹介するともに、「コンクリート単体ではなく、複合体であるコンクリート構造物として評価する視点が重要」と話し、研究会が作成中の判定基準などを中間報告した。



最新の研究成果などを紹介する佐藤准教授